



研修医便り

～ おいしゃさんのつくりかた～

第3号

令和元年12月19日

発行：公立玉名中央病院
教育・研修部会

おかえり内田先生、どこいったの？



2次離島研修（与路島）での奄美の美しい海。



指導医、後期研修医、初期研修医と。



訪問先の加計呂麻島でガジュマルと。

地域医療研修を終えて

こんにちは。2年次研修医の内田裕己です。

今回、地域実習として十一月の1か月間、鹿児島県は奄美大島にある、瀬戸内徳洲会病院というところで研修してきました。

僕が瀬戸内徳洲会病院を研修先に選んだ理由としては、「研修医の間に離島医療という形で地域医療を実践・経験したかった」ことに加えて、「研修医としてのくらい貢献できるのか、今の自分の力が知りたかった」という二つの理由がありました。

病院がある鹿児島県大島郡の瀬戸内町は、奄美大島の最南端に位置し、加計呂麻島、請島、与路島の有人3島を含む人口約9000人からなる町です。面積の約9割が山林で占められ、町木であるソテツやガジュマルなどが生い茂る南国特有の自然豊かな土地に、五十六もの集落が点在しています。そんな瀬戸内町の中核医療を担っているのが、瀬戸内徳洲会病院です。病院の規模としては一般病床六十床で、一般外来や通所リハビリ、訪問診療などを行っています。スタッフは医師、薬剤師、看護師、理学療法士など含めて約100名ほどであり、全国から応援にきているスタッフも多数いらっしゃいます。

離島での実習でしたが、糖尿病などの生活習慣病をはじめ、重症感染症や外傷など幅広い症例を経験させていただきました。転倒を主訴に船で受診しに来た高齢者の症例や、小児の八つ咬傷の症例は、奄美大島に特徴的なものでした。基本的には研修医でも、外来や病棟業務、訪問診療などに対して一人の内科医として診療にあたります。もちろん困ったことは上級医の指示を仰いでいましたが、1か月を通して、主体性を持って研修できたことは自分の現時点での実力を知るとともに、多少の自信につながったため、大変有意義な研修だったと思います。また、検査や治療法に限られる中での診療であったり、加計呂麻島や請島などの二次離島から来る患者への対応（例：交通費だけでも数万円するため、例え軽症でも入院として対応することがある）であったりは、地域研修・離島研修に特徴的で、いい経験になったと思います。

玉名での研修は残り約3か月と少ないですが、今回の研修を通して経験できたことを少しでも活かし、玉名の医療に貢献しようと思えました。指導医の方々をはじめ、スタッフの皆さん、今後とも研修医へのご指導ご鞭撻の程、宜しく申し上げます。

